

北海道開発局事業審議委員会（令和3年度第3回） 審議案件一覧

	事業名	再評価理由	上段：前回評価 下段：今回再評価	事業の概要	事業期間		全体事業費 (億円)	進捗率	事業の効果等	費用便益比全体 B/C	総費用	総便益	地方公共団体等の意見	対応方針(案)	対応方針(案)決定の理由	備考
					事業化 年度	完了予 定年度										
再～1	天塩川直轄河川改修事業	再評価後5年	H28再	平成19年10月天塩川水系河川整備計画を策定し、戦後最大規模である洪水を安全に流すことを目標に、堤防、河道掘削等の整備を進めている。	H19	R18	799	約56%	整備計画における整備メニューの実施により、戦後最大規模の洪水を安全に流すことができる。	1.2	727	866	当該事業は、戦後最大規模の洪水流量を安全に流下させる河道の整備等を行うことにより、洪水被害から人命と財産を守り「安全・安心」を確保することから、事業の継続について異議はありません。 なお、事業の実施にあたっては、サケ・マス等の生息環境などの保全に努め、より一層、徹底したコスト縮減を図るとともに、これまで以上に効率的・効果的な執行に努め、早期完成を図るようお願いいたします。	継続	事業の必要性・重要性に変化はなく、費用対効果等の投資効果も確保されているため	重点審議 (c) 推定事業費が顕著に増加する事業
			R3	同上	H19	R18	917	約67%	同上	1.2	1212	1428				
再～2	湧別川直轄河川改修事業	再評価後5年	H28再	平成22年11月に湧別川水系河川整備計画を策定し、戦後最大規模の洪水を安全に流すことを目標に、河道掘削、護岸等の整備を進めている。	H22	R11	21	約48%	整備計画における整備メニューの実施により、戦後最大規模の洪水を安全に流すことができる。	8.9	22	194	当該事業は、戦後最大規模の洪水流量を安全に流下させる河道の整備等を行うことにより、洪水被害から人命と財産を守り「安全・安心」を確保することから、事業の継続について異議はありません。 なお、事業の実施にあたっては、サケ・マス等の生息環境などの保全に努め、より一層、徹底したコスト縮減を図るとともに、これまで以上に効率的・効果的な執行に努め、早期完成を図るようお願いいたします。	継続	事業の必要性・重要性に変化なく、費用対効果等の投資効果も確保されているため。	重点審議 (c) 推定事業費が顕著に増加する事業
			R3	同上	H22	R11	37	約46%	同上	5.7	58	329				
再～3	十勝川直轄河川改修事業	再評価後5年	H28再	平成22年9月に十勝川水系河川整備計画を策定し、戦後最大規模の洪水を安全に流すことを目標に、堤防、河道掘削、堤防の保護対策等の整備を進めている。	H22	R20	1,569	約35%	整備計画における整備メニューの実施により、戦後最大規模の洪水を安全に流すことができる。	2.6	1379	3542	当該事業は、戦後最大規模の洪水流量を安全に流下させる河道の整備等を行うことにより、洪水被害から人命と財産を守り「安全・安心」を確保することから、事業の継続について異議はありません。 なお、事業の実施にあたっては、サケ・マス等の生息環境などの保全に努め、より一層、徹底したコスト縮減を図るとともに、これまで以上に効率的・効果的な執行に努め、早期完成を図るようお願いいたします。	継続	事業の必要性・重要性に変化なく、費用対効果等の投資効果も確保されているため。	『費用対効果分析実施判定票』により確認 ※〔 〕内は前回評価結果を使用
			R3	同上	H22	R20	1,690	約47%	同上	(2.6)	(1,379)	(3,542)				
再～4	天塩川総合水系環境整備事業	社会経済情勢等	H29再	天塩川下流地区・天塩川中上流地区の自然再生及び天塩地区かわまちづくり・名寄川地区かわまちづくりの整備を進めています。	H16	R11	48	44	生物の多様な生息環境の復元及びかわまちづくりによる地域活性化が期待される。	3.0	52.0	154.0	本事業が目的とする、天塩川下流地区における汽水性の水環境や多様な河岸などの河川環境の回復や、天塩町と連携した水辺整備による自然環境を活かした地域活性化などの取組みは、北海道の川づくりビジョンの趣旨に沿っていることから、当該事業の継続について異議はありません。 なお、事業の実施にあたっては、より一層、徹底したコスト縮減を図るとともに、これまで以上に効率的・効果的な執行に努め、早期完成を図るようお願いいたします。	継続	事業の必要性・重要性に変化はなく、費用対効果等の投資効果も確保されているため	重点審議 (a) 事業計画が顕著に変更された事業
			R3	同上	H16	R12	44	74	同上	2.9	58.0	169.0				
再～5	沙流川総合水系環境整備事業	再評価後5年	H28再	アイヌ文化の保存・伝承・体験・交流・学習に必要な水辺空間の形成を目的とした整備を進めています。	H14	R8	7	34	水辺空間の整備による、アイヌ民族伝統文化の保存・伝承・振興への貢献が期待される。	19.9	8.2	163.0	流域に伝わるアイヌ文化の保存・伝承などに必要な水辺空間の整備を平取町と連携して行っており、北海道の川づくりビジョンの趣旨に沿っていることから、当該事業の継続について異議はありません。 なお、事業の実施にあたっては、より一層、徹底したコスト縮減を図るとともに、これまで以上に効率的・効果的な執行に努め、早期完成を図るようお願いいたします。	継続	事業の必要性・重要性に変化なく、費用対効果等の投資効果も確保されているため。	『費用対効果分析実施判定票』により確認 ※〔 〕内は前回評価結果を使用
			R3	同上	H14	R8	7	75	同上	(19.9)	(8.2)	(163.0)				
再～6	釧路川総合水系環境整備事業	再評価後5年	H28再	湿原環境の保全・復元を目的に、釧路湿原の自然再生を進めています。	H13	R15	76	58	湿原本来の環境に近づき、生物の多様な生息環境の復元、湿原中心部への土砂流入量の削減、湿原植生の回復等が期待される。	7.2	84.0	601.0	釧路湿原は急激な面積減少と乾燥化が進行しており、その保全・再生のため、蛇行河川の再生や土砂流入防止対策の取組みなどを行っており、北海道の川づくりビジョンの趣旨に沿っていることから、当該事業の継続について異議はありません。 なお、事業の実施にあたっては、より一層、徹底したコスト縮減を図るとともに、これまで以上に効率的・効果的な執行に努め、早期完成を図るようお願いいたします。	継続	事業の必要性・重要性に変化なく、費用対効果等の投資効果も確保されているため。	『費用対効果分析実施判定票』により確認 ※〔 〕内は前回評価結果を使用
			R3	同上	H13	R15	76	72	同上	(7.2)	(84.0)	(601.0)				

(b) 推定便益が顕著に減少する事業
(c) 推定事業費が顕著に増加する事業
(d) 事業の進捗予定が顕著に遅れている事業
(e) その他の要因